

未来を想い 今に挑む

「住民の顔が見える広報」を目指し、地域おこし協力隊がまちに飛び出て、市民の皆さんをクローズアップ！
今回は赤平出身で2015年の赤平青年会議所の理事長を務める麻生さん。赤平に戻ってからの変化や現在の思いなど赤裸々に語って頂きました。

(有)麻生電設 **麻生 剛**さん

TSUYOSHI ASOH



地元赤平に戻って来たきっかけは？

赤平高校を卒業した後、札幌の大学に進学して福島県、広島県で通算12年ほど働いていました。年齢を重ねるうちに、会社で責任のあるポジションを任せられるようになったとき、初めて実家の家業をひとりで担っていた母親の大変さを痛感したんです。それまでは、赤平へ帰ることを全く考えていませんでしたが、少しずつ母親の助けになりたいと考えるようになり、子どもが小学生になるタイミングで地元赤平に戻ることを決めました。



▲実際に現場で働く麻生さん。一つひとつを丁寧に真摯に向き合っている姿が印象的でした。

地元に戻って変わったことは？

大きく変わったことは、赤平青年会議所に入会して、それまで他人事だと思っていた『地域』や『まちづくり』に対して意識す

るようになったことですかね。

加入した当初は、まちづくりのために真剣に話し合う仲間たち、少し距離を感じていました。今思えば、自分自身が『地域』や『まちづくり』に対して無関心だったんです。活動していくなかで、知らない間にいろんな人に助けをいただいで、このまちに生かされていることを実感しましたね。それらを理解した上で行動するようになったことは、自分にとって大きな変化でした。

今後の目標は？

最終的な目標としては、『赤平っていいね』『赤平に住みたい』って思ってくれる人をひとりでも多く増やすことです。

そのために、大人はもちろん、子どもたちにも赤平への郷土愛を育めるような活動をこれからも続けていきたいですね。

また、個人的には小さいころから野球が好きで、現在も赤平高校の卒業生で結成された『アウェイカーズ』という野球チームに在籍しています。昨年は日程が合わなくて1試合しか出場できなかったのですが、今年はなんとか時間をみつけてプレーしたいです！

編集後記

地域おこし協力隊 まちの情報発信部門
愛知県出身 野口 暢子



雪道を歩くことに未だに慣れず、たまに歩いて出勤する時には、必ず「すってんころりん」と転んでしまいます(笑)。まちの人を見ても誰一人転ばずに歩いているのでビックリです。皆さん雪道に慣れていて凄い！と思いました。



赤平青年会議所の新年交歓会で前理事長の稲石さんより理事長バッジを託され、緊張しながらも力強く今年の抱負を語った麻生さん。